若者から見た北船場の魅力

阪南大学　国際観光学部
２年生　清水ゼミ
芥川祐貴　浅利さくら　安藤沙也花
伊藤大樹　久保田知紗　世良明日香
北内里奈　沼本舞果　文元小波　松枝湧也
溝渕友珠夏　吉田桃子　米木愛未　和田知樹

目次

1章　研究の背景および目的

2章　北船場について
　2-1.　北船場地区の概要
　2-2.　現在のまちづくりの取り組み

3章　研究内容
　3-1　フィールドワーク
　3-2　調査のまとめ
　3-3　提案

4章　まとめ

１章　研究の背景および目的

日本は観光立国を掲げ、2020 年の東京オリンピック時には 4000 万人の訪日外国人を目標にしている。西の玄関口として大阪は注目され、24 時間空港の関西国際空港は今や１千万人を優に超える外国人が利用している。大阪府には多くの観光地があるが、「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」「大阪城」など、観光客を惹きつけるスポットの多くは大阪市内に集中している。中でも大阪市中央区には、道頓堀をはじめ黒門市場や心斎橋筋商店街、日本橋のでんでんタウン、アメリカ村や大阪城といった観光客に人気のスポットが数多く点在している。

しかし、これらの観光スポットの名前を聞くことはあっても「船場」という名前を聞くことは少ない。船場の中でも特に北船場地区は、一つの地区内に多くの近代建築が存在している日本有数の近代建築密集エリアである。近代建築を活かした数万人規模のイベントも実施している。近代建築だけでなく冬には御堂筋を光で彩るイルミネーションも実施している。この他にも数多くの集客イベントが実施されているが、北船場周辺はオフィス街が多く休日は店舗を定休日にしているといった理由からか、魅力あふれる北船場に訪れる観光客は未だ少ない。現在 26 のまちづくり団体が活動を行う中で、そのプラットフォームとなっている「船場げんきの会」の協力の元、北船場地域の魅力を大学生という若者目線から発見することを目標に本研究を進めた。

2 章　船場について

2-1.　北船場地区の概要

(1) 位置

写真-1　北船場の地図　出典：船場ガイドブック 2016 船場人より

大阪府大阪市中央区に位置する船場は、北は土佐堀川、東は東横堀川、南は長堀通、西は阪神高速環状線（横堀筋）に囲まれた東西 1.1km、南北 2.1km の約 230 ヘクタールに及ぶ地区である。さらに船場地区では北船場、中船場、南船場と区分されていて、今回の研究で取り上げる北船場地区は、北は土佐堀川、南は本町通までの地区のことを指す。飲食店や、近代建築、雑貨店、ギャラリーなどが立ち並ぶ町並みは落ち着きながらも高級感のある雰囲気を楽しむことができる。

(2)　人口

北船場の位置する大阪府大阪市中央区は 1960 年に人口のピークを迎え、133,220 人であった。これを境に経済都市として発展していく傍ら年々人口が減少し、1995 年には 52,874 人にまで減少した。しかしその年を底に年々増加し、2017 年 2 月の中央区の人口は 95,598 万人に達している。中央区の高層マンションの増加がその要因と言われている。

（大阪市ＨＰ：http://www.city.osaka.lg.jp/chuo/cmsfiles/contents/0000117/117923/suiihyoupdf.pdf）

都市化が進み、ドーナツ化現象が起こった中央区では、昼間人口と夜間人口の差がとても大きいという特徴がある。2010 年には約 39 万人の差があった。（表－１、表－２）

表-1 中央区の昼間人口

	昼間人口			
	1995	2000	2005	2010
船場	**291,329**	**269,235**	**260,126**	**239,728**
北船場	142,828	133,735	132,918	127,233
中船場	105,499	94,641	86,903	77,491
南船場	43,001	40,859	40,305	35,004
中央区	**577,490**	**523,897**	**508,343**	**465,786**
大阪市	3,803,203	3,664,414	3,581,675	3,538,576

引用元：http://semba-genki.net/archive

表-2 船場の夜間人口

	夜間人口			
	1995	2000	2005	2010
船場	**3,772**	**3,863**	**6,304**	**9,542**
北船場	1,099	904	1,900	3,787
中船場	1,186	1,122	2,152	3,078
南船場	1,487	1,837	2,252	2,677
中央区	**52,851**	**55,305**	**66,818**	**78,687**
大阪市	2,596,486	2,595,394	2,628,811	2,665,314

引用元：http://semba-genki.net/archive

2-2. 現在のまちづくりの取り組み

(1) 近年のまちづくり

北船場には数多くの近代建築が残されているが、近年は一部のテナントがレストランなどにリノベーションされ新しい建物の魅力が生まれている。2002 年に旧大阪教育生命保険ビルがシェワダ高麗橋本店にリノベーションされたことを皮切りに、近代建物に魅了されたシェフや、パティシエが新たな店舗を開き、近代建築に新たな魅力を生みだしている。また、2005 年に若者たちが船場に残る近代建築の魅力に惹かれ、芝川ビルにおいて、「大大阪サロン」を開催した。これがきっかけとなり、近代建築のオーナー達とまちの人々が建物に対する思いを共有することになった。そして、これがきっかけとなり、近代建築ネットワークの活動や、近代建築まち歩きなどの活動へと発展していった。

(参考文献：船場ガイドブック 2014 船場人より)

(2)　情報発信

2016 年 3 月に内北浜通の適塾前、今橋通りの 3 丁目の 2 か所に船場地区においては初となる「観光案内板」が設置された。大阪市による歩道拡幅整備や無電柱化、周辺景観と調和した道路の整備などに合わせ、船場地区の回遊性を向上させるための仕組みづくりの一環として地上設備機の上部に取り付けられた。この案内板は大阪市が提案し、船場のまちづくりに関わる人々が考え、デザインして完成した官民協働の案内板であり、案内板づくりをきっかけに「船場倶楽部」という名の新たなまちづくり組織も発足した。また、「船場倶楽部」をはじめとする船場を活気づけるために結成された 26 団体を一つにまとめた「船場げんきの会」が 2004 年に活動を始めており、2014 年にはまちづくり宣言を

し、「賑わい生活都心」というビジョンを掲げた。これは、今までの商業・ビジネス単一機能の都市ではなくまちの主人公である住む人、働く人、遊ぶ人たちが快適で多様な暮らしを楽しむ、新しい都心の姿を将来の理想イメージとした目標である。「船場げんきの会」を中心に、より魅力のある船場のまちづくりを目指して船場地区全体で活動を行っている。情報発信にも力を入れており、船場を知ってもらうためのガイドブックや、Facebook、「船場ナビ」という HP を作製するなどの活動も行っている。

写真 2：北船場地区に実際に置かれている実際の案内版　出典：大阪市ホームページ（http://www.city.osaka.lg.jp/index.html）

(3)　イベント

現在、船場地区では１年を通じて様々なイベントが開催されているが、９月から１１月にかけて「御堂筋オータムギャラリー」や「神農祭」や「船場まつり」などの代表的なイベントが有名である。

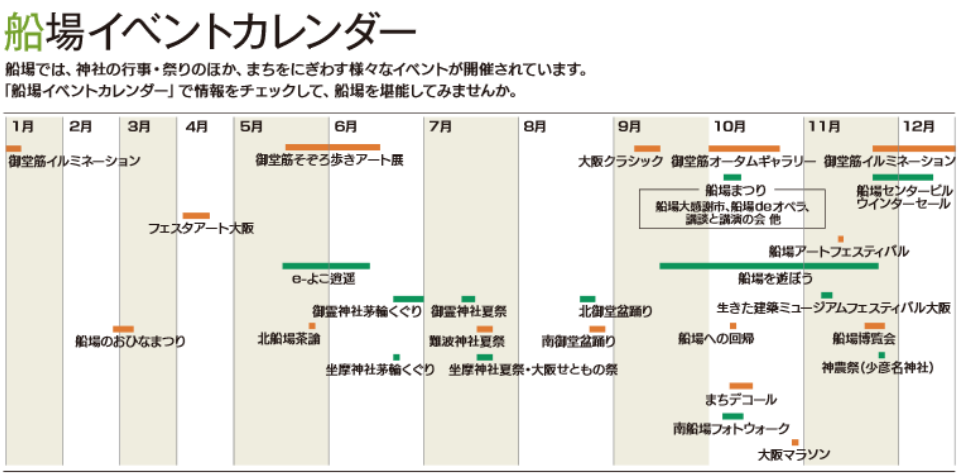

写真 3：船場のイベントカレンダー　　出典：船場ガイドブック 2016 船場人

2014 年度から始まったイベントで、船場に存在する近代建築の魅力を最大限生かした「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」（以下イケフェス）は、北船場で行うイベントでも最大規模を誇る。2016 年のイケフェスは 2015 年を約 7 千人上回る延べ 3 万 7 千人が参加した。イケフェスでは、普段は入れない建築物の特別公開や、ビルのオーナーがガイドツアーを企画するなど、北船場の近代建築を楽しめるプログラムが用意されている。３分の１は大阪府外からの参加者で、東京からの参加も見られた。この他にも近代建築の利用や、ランチで賑わう飲食店を利用したイベントなど様々なイベントを多数開催している。（写真 3 参照）

写真４：生きた建築ミュージアムフェスティバル　写真５：船場フォーラム

3 章　研究内容

3-1. フィールドワーク

【店舗調査】2017 年 2 月実施

現在訴求できていないターゲットとして学生の若者と考えたため、自分たちでネットや SNS を利用して北船場の飲食店（カフェ）を調べ、対象が学生なので自分たちが行きたいと感じたところ１４軒にヒアリング調査を行った。カフェといってもコーヒーや軽食だけのお店やランチができるお店など幅広くピックアップした。北船場にお店を開いた理由、船場げんきの会の方と同じく学生層を求めているのか、現在多い客層などいくつかの質問を行った。

写真６・７：北船場のカフェ

【マップ調査】2016 年 9 月から 2017 年 2 月実施

北船場のマップを調査する上で、まずはどのようなところにどのようなマップがあるのかを調査した。すると、ビルや近代建築の中にはいくつかのマップがあった。そのあと見つけたマップの１つである“船場人”に載っているマップを見ながら実際に船場のまちあるきを行った。しかし、マップに掲載されている情報が少なく、歩きやすいものでは無かったので、お手本となるマップを探して比べどのような情報があればわかりやすいかを考えた。

【案内板調査】

現在、北船場地区には二箇所に観光案内板が設置してある。（写真 2 参照）

観光案内板は、見た目のデザインも良く、歴史紹介や地図としての役割も果たしているが、地図としては非常に狭域で来訪者が必要としている情報は少ないと感じた。歴史紹介についても文字が多く、利用促進につながるとは考えづらいものであった。そこで観光案内板の利用人数および利用頻度を調べるため 2016 年 8 月 16 日(火)10:00～12:00 でそれぞれの箇所の案内板の定点観測を行った。この日の通行人は二箇所合わせて約 200 人に対して案内板の利用人数は 5 人という結果だった。

【ホテルへの調査】

どのような人が船場を訪れているかを調査するため、船場にあるホテル全 17 軒のうち、電話で許可を得ることのできた下表のホテル支配人に聞き取り調査を 2016 年 8 月 16 日(火)に行った。その結果を以下の表にまとめた。表 3 の結果からホテル従業員は船場を紹介するのではなく、船場外の周辺観光地を案内していることが分かった。また観光案内

のツールとして３軒すべてがホテル自作のマップを作成して利用していることが分かった。

表-3　北船場地区のホテル聞き取り調査結果まとめ

	ダイワロイネット大阪北浜	シティプラザ大阪	ホテルマイステイズ堺筋本町
ホテル側の船場へのニーズ	未回答	土日の店舗営業。名物、名所が少ない。 船の定期便をもっと利用したい	未回答
ビジターの船場へのニーズ	未回答	堺筋通りを超えた辺りが静かで落ち着くという声があった。	土日も開店してほしい 駐車場が足りない
お客様に聞かれること	土日も営業のお店	大阪城の場所	美味しい食べ物はないか
観光目的、ビジネス目的どちらが多いか	観光客が多い	観光目的の方が多いがビジネス客もいる	基本的には観光客が多い 水、木曜日はビジネス客が多
観光案内しているもの	ホテル自作のマップ	ホテル自作のマップ	ホテル自作のマップ
平日(土日)の集客人数	平日と土日の客数に差はない	外国人のお客様は 3～4 割海外のお客様が多いのは平日	平日は連泊の訪日外国人 休日は国内のお客様が多い
平日(土日)はどこへ案内するか	船場への案内は少ない	難波、USJ、ハルカス	堺筋通りの西側ががわかりづらい
ホテルがお勧めする場所	大阪城	難波、USJ、ハルカス	ドンキホーテ　海遊館 梅田スカイビル
個人的にお勧めの場所	未回答	Fujiya1935	つるとんたん

【ボランティア活動】

２０１６年１１月５日（土)、６日（日）の２日間「生きた建築ミュージアムフェスティバル２０１６」のボランティア活動にゼミ生１２人が参加した。それぞれ北船場にある近代建築に振り分けられ、受付や案内のサポートを行った。ビルのオーナーからそのビルの歴史などの話を聞いたり、近代建築を目的に訪れる方はどのような方が多いかなど、自分たちが

実際にボランティアに参加することでその魅力を実感することができた。そして２０１７年３月１１日（土）に行われる第１３回船場フォーラムのボランティアへの参加も予定している。

【オープンスペース】

北船場には多くの高層ビルがあり、イベントでビルの玄関であるオープンスペースを上手く活用している。中でも Odona の前のオープンスペースが駅近で御堂筋に面し、人通りも多く、その活用に興味を持った。現在 Odona と大阪マルシェほんまもんが共同で毎週水曜日に開催する「大阪マルシェほんまもん」（近郊の新鮮な農作物等を販売）に 2017 年 2 月 22 日のイベント開始直後にフィールドワークを行った。各店舗はテントを設けて販売しているが、どの店にも平均して１０名ほど集まっていて、多い店には２０名ほど集まっていた。イベント時間は 14 時から 19 時であるが、始まったばかりからかなりの賑わいで、活気があり、とても良い雰囲気であった。

写真８：「大阪マルシェほんまもん」

写真９：「大阪マルシェほんまもん」

3-2. 調査のまとめ

北船場地区では１年の間に様々なイベントが繰り広げられている。近代建築をテーマに約３万７千人が集まる「生きた建築ミュージアムフェスティバル」や、クリスマスの夜の御堂筋を美しく彩るライトアップなど集客に繋げられる観光資源がたくさんあるが、情報が広く行き渡っていないため、ほとんどの観光客がそれらを周知できていないと思われる。まずは北船場を知ってもらうことが最優先だと考える。北船場エリアはビジネスの中心地だが、大阪隋一の繁華街である難波・心斎橋エリアからも比較的近いため、増え続けている訪日外国人も立ち寄る事が多くなることが予想される。さらに近年はこの地域にホテルやマンションなどの高層ビルの建設が相次いでいる。訪日外国人だけでなく近隣住民も北船場エリアに訪れることになる。これらの要因から、案内板は来訪者にとってさらに重要な役割を持つことになる。調査したときはほとんど利用されていなかったことから、追加費用や管理の問題はあるが来訪者のニーズに即した案内板の整備が必要ではないかと感じた。

店舗調査においては「船場げんきの会」と「カフェ等の店舗経営者」の間で今後ターゲッ

トとしたい客層において違いがあることが分かった。「船場げんきの会」は、元々ターゲットとする大人はすでに北船場に来ているので、これまでターゲットとなっていなかった若者に目を向けたいと話しているが、「店舗経営者」は若者だけでなくその店舗の価値を分かってくれる人ならば特に対象を絞らないとのことだった。店舗という特性から、ターゲットを絞るよりは多くの集客を図ることが重要であるので、当然若者だけに焦点を絞れないだろう。お互いがこの異なるニーズを知ることは重要ではないだろうか。それを共有して、また新たな価値を作っていけるかもしれない。

北船場地域全体の活性化のためには、来訪者を今以上に増やす必要がある。例えばランチを食べた後にデザートを食べにほかのカフェに行く、といったルートマップ作成などを進めていくことで、北船場全体の集客につながり、若者が訪れてくれるのではないかと考える。そして、学生の若者が来てその店を気に入ってくれたなら、何年後かには社会人となりカフェ側が求める価値をわかってくれるリピーターになり、北船場に来訪してくれることになるのではないだろうか。

マップ調査においては、地域活性化をするにはまちをよく知ってもらう必要があり、そのためには実際に訪れて歩いてもらわなければならないと考えた。しかし北船場にはまちあるきが出来るマップがないため、私たちは必要だと考える項目を入れたマップの作成に取り組んだ。これから北船場がより来訪客を受け入れるための、手に持ちやすく、有名なショップなどを記した見どころがわかりやすいマップが必要だと考える。

多くの人を呼ぶためにはまずは「北船場」という場所を知ってもらわなければならない。SNS は、多くに人に効率的に拡散できる特性を持っている。SNS を有効活用することでまずは知ってもらうことができるのではないだろうか。また、来訪者を迎え入れるためのマップや案内版などハード面における準備も同時に進めなければならないと考える。

3-3. 提案

フィールドワークを行って、それぞれ感じたことを話し合い２つの提案を考えた。

１つはマップ自体とお店の位置情報を掛け合わせ、カフェ巡りのマップ作りを行う。エリア・目的を決め、それにあったお店の情報を掲載したルートマップを作成することで、3-2 で述べた北船場地域の活性化にも繋がる。

2 つ目はオープンスペースの活用である。フィールドワークを行った際に、0dona の前にある広いオープンスペースを使って何かできないかと活用方法を考えた。船場のお店のこだわりのものを売る（出張販売）、飲食店ならテイクアウトできそうなものや軽食の販売、占い、似顔絵、曜日ごとに移動式のお店の出店（ランチ販売など）、ガレッジセール、レンタルサイクルなど空きスペースで催し物をすれば、おのずと人も集まってくると考える。それを平日はもちろん休日にも行うことで、賑わいを取り戻せるのではないかと考えた。

具体的な提案に関しては、3 月 16 日に北船場で報告会を行い、手書きの地図の提示や研究成果報告をする予定である。

４章　まとめ

本研究においては学生目線で北船場の現状を捉えることを目的とした。フィールドワーク、「生きた建築ミュージアムフェスティバル 2016」への参加を通じてより船場のことを深く知ることができ、課題点も見えてきた。

今後ますます人口が増す船場のある中央区には、高層ビルの建設計画や繁華街も近場にあることから増え続けている訪日外国人も船場に訪れることが予想される。外国人にも船場を知ってもらい、訪れてもらい、これらの人のニーズを的確に捉え来訪者に感動を与えることで魅力ある北船場が世界に発信される。

日本有数の近代建築を持つ北船場が、船場から大阪、大阪から日本、日本から世界にその魅力を発揮できるまちになることを懇願する。

最後に、本研究を進めるにあたりご協力いただいたダイワロイネットホテル大阪北浜支配人、シティプラザ大阪支配人、ホテルマイステイズ堺筋本町支配人、船場まつりの来訪者の方々、店舗調査の際にヒアリング調査をさせていただいた北船場のカフェを経営しているオーナー様には貴重なお時間をいただきアンケートにご協力いただけましたこと心より感謝いたします。

■　参考資料

人口の推移（中央区・大阪市）≪昭和 25 年国勢調査～平成 27 年国勢調査
http://www.city.osaka.lg.jp/chuo/page/0000117923.html
大阪市の推計人口年報（平成 26 年）
http://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/cmsfiles/contents/0000203/203035/H26-10-suikei-gaiyou.pdf
中央区人口ビジョン －人口動向分析及び将来人口推計－
https://www.city.chuo.lg.jp/kusei/keikaku/sonotanokeikaku/zinkouvision.files/zinkouvision.pdf
大阪市ホームページ
http://www.city.osaka.lg.jp/index.html
船場元気の会 HP
http://semba-genki.net/
大阪久宝寺超卸連盟
http://www.qho.jp/
三休橋筋愛好会
http://3q-ave.seesaa.net/
御堂筋まちづくりネットワーク
http://www.midosuji.biz/